

佐渡米通信

こめへる

2024年12月号

発行日:2024年12月

発行：佐渡農業協同組合 担当：総務部企画課 駒形(葵)
jasadosoumu02@snw.ocn.ne.jp

JA佐渡職員もう一俵のお願いに奔走

JA佐渡管内では目標集荷率に対して未達状況にあり、JA佐渡職員が生産者宅へ出荷のお願いに何う「もう一俵運動」に取り組んでいます。集荷率の低下の要因は、7月の天候に起因する倒伏と刈り取り期の長雨の影響により収量が例年より10aあたり1俵～1.5俵少なかったこと、民間業者による直接集荷の影響と考えています。

近年の一等米比率の低下及び収量の低下について新潟県農業普及指導センターと協力し早急な対策と準備に取り組んで参ります。



もう一俵を訴える窓一面のポスター



農産物検査員で意見交換を行っている様子

佐渡の米農家さんにインタビュー

畑野地区丸山地域の(農)丸山営農組合代表理事の本間晴幸さんにインタビューさせて頂きました。同法人は設立して10年目になるそうで、朱鷺と暮らす郷認証米を約12ha、もち米やあきたこまちを20a作っています。

同地域は小佐渡山脈の海側に面した山腹にある中山間地で、山肌に面した畦畔の面積が広く草刈りの労力が大きいです。同法人では少しでも負担を軽減するために農研機構が主体となったプロジェクトに参加し、急勾配の畦畔に対応する先端的草刈り機の検証などを行いました。その他にも積極的に先端技術の導入を検討しており作業負担の軽減に繋げているそうです。この取り組みには別の効果もあり、集落の若い人たちが最新の機械やシステムに興味をもって来て農作業に参加してくれるようになったそうです。そうした若者が集落に10名ほどいるそうで、若い人が農業に希望を持ってもらえるような取り組みを同法人では心掛けられている様子が伺えました。本間さんの取材中、最新のコンバインに人生初の乗車をさせてもらいました。本間さんから機械の説明をもらっているうちに、集落の若い人たちの気持ちが分かった気がしました。

JA佐渡では、ドローンの活用術など最新技術の検証も行っており、情報共有も兼ねた研修会も開催しております。



弥彦山と角田山が臨める棚田を案内してくれる本間さん



傾斜50度の畦畔にも対応できる草刈り機



(農)丸山営農組合

生産者さんとお米授業

お米作り授業を通して
お米の重みを体感



種まきから育てた稲の収穫



稲から粳を取る脱穀体験の様子

ふゆみずたんぼ
秋耕転
稲刈り
穂肥
中干し
水管理
田植え
苗づくり
春耕転
温湯消毒

